

肥満治療薬標的分子の機能解析

1 研究の概要

肥満モデルマウスの解析から、肥満の原因遺伝子と考えられる機能未知の分子を見いだしている。本分子の細胞レベル、或いはマウス個体レベルにおける作用を明らかにし、創薬標的としての可能性について検討する。

2 研究成果の概要

肥満動物モデルを用いた研究（QTL解析）から、肥満の発症に関わる分子を見出している。共同研究では、創薬標的としての妥当性を評価し、本分子が発揮する代謝機能に基づき、肥満治療のみならずこれ以外の治療標的となる対象疾患・病態を明らかにすることを目指している。細胞レベルにおいて代謝機能を明らかにするとともに、マウス個体レベルにおける代謝調節機能を遺伝子改変マウスの作製等により明らかにする研究を進めている。

3 研究成果の将来の展望

- ・ 本分子の細胞、或いはマウス個体レベルにおける代謝機能を明らかにすることにより、肥満発症の新機序を発見し、これに基づく治療薬開発が期待される。
- ・ 本分子のマウス個体レベルにおける代謝機能を明らかにすることにより、創薬標的としての妥当性を明らかにするとともに、個体レベルのスクリーニング系の確立が期待される。
- ・ 本分子による代謝調節機能を明らかにすることにより新たな治療対象疾患・病態を明らかにすることが期待される。